

まちの話題が満載
まちの動き
カメラレポート

12月7日、特別養護老人ホーム一味園にAED（自動体外式除細動器）が設置されたのを契機に心肺蘇生法の講習会が行われました。AEDは俗に「電気ショック」と呼ばれているもので心肺蘇生にはかせない機器でありますが、これまででは使い方が難しいため医師にしか使用が認められていませんでした。最近、電気ショックを与えるかどうかを器械が判断する自動式除細動器が開発され、それが十分に信頼でき、かつ有効性も高いことから、一般の方にも扱えるようになりました。

講習会には、一味園をはじめ、からまつ園、役場の職員など40名が参加しました。はじめに金山・落合診療所の中村医師の講義の後、消防南富良野支署救急隊員の指導



のもとに蘇生術練習用の人形を使用して、気道確保や人工呼吸、心臓マッサージの手法に続いて、AEDの使い方を実習しました。

中村医師は「欧米では市民に心肺蘇生の技術が浸透しており、病院外で心停止に陥った方に対し市民がすぐに蘇生術を施すので、救命率が日本に比べてずっと高くなっています。しかし、残念ながら日本では一般市民によって蘇生術がなされることがほとんどないのが現状です。今後も機会を見つけてこのような講習会を開いて、町民に蘇生術を広げていきたい。」と話していました。

シリーズ 学校だより ③7
各学校の取り組みを紹介します。

▶▶ 金山小学校 ▶▶▶



△算数の授業

教育研究実践発表会

金山小学校では、昨年10月20日に「上川南部地区へき地複式教育研究大会」を開催しました。

研究主題「自ら学ぶ子どもの育成」に関わる過去3年間の研究成果を参加者70名の皆様と共に協議し、多くの成果をあげることができました。

当日は、1・2年生（小石川学級）3・4年生（菊池学級）の学級で「少人数学級における算数科指導を通して」をテーマに研究授業を公開し、児童1人ひとりのしつかりした学ぶ姿勢に参加者から賞賛の声をいただきました。

学校・家庭・地域のつながりを大切に考え、金山小学校の恒例行事としてすっかり定着している「出店集会」です。

11月25日、地域のお年寄り・金山保育所園児・保護者の皆様をお招きして、子ども達が自ら考え作製したゲームでスタート。ゲーム終了後は、PTAの皆さんが作ったうどん・ココア・綿菓子などで昼食をとりました。

この行事を通して、多くの方々から温かい言葉や笑顔をいただき、金小っ子全員が更にふれ合いの大切さを学ぶことができました。

みんなで楽しく
「出店集会」



△「受付」の様子